

日本財団ボランティアサポートセンター

東京2020大会「都市ボランティア」アンケート調査（1） ～応募動機、ボランティア活動への期待～

2020年1月15日～2月5日実施

—調査結果—

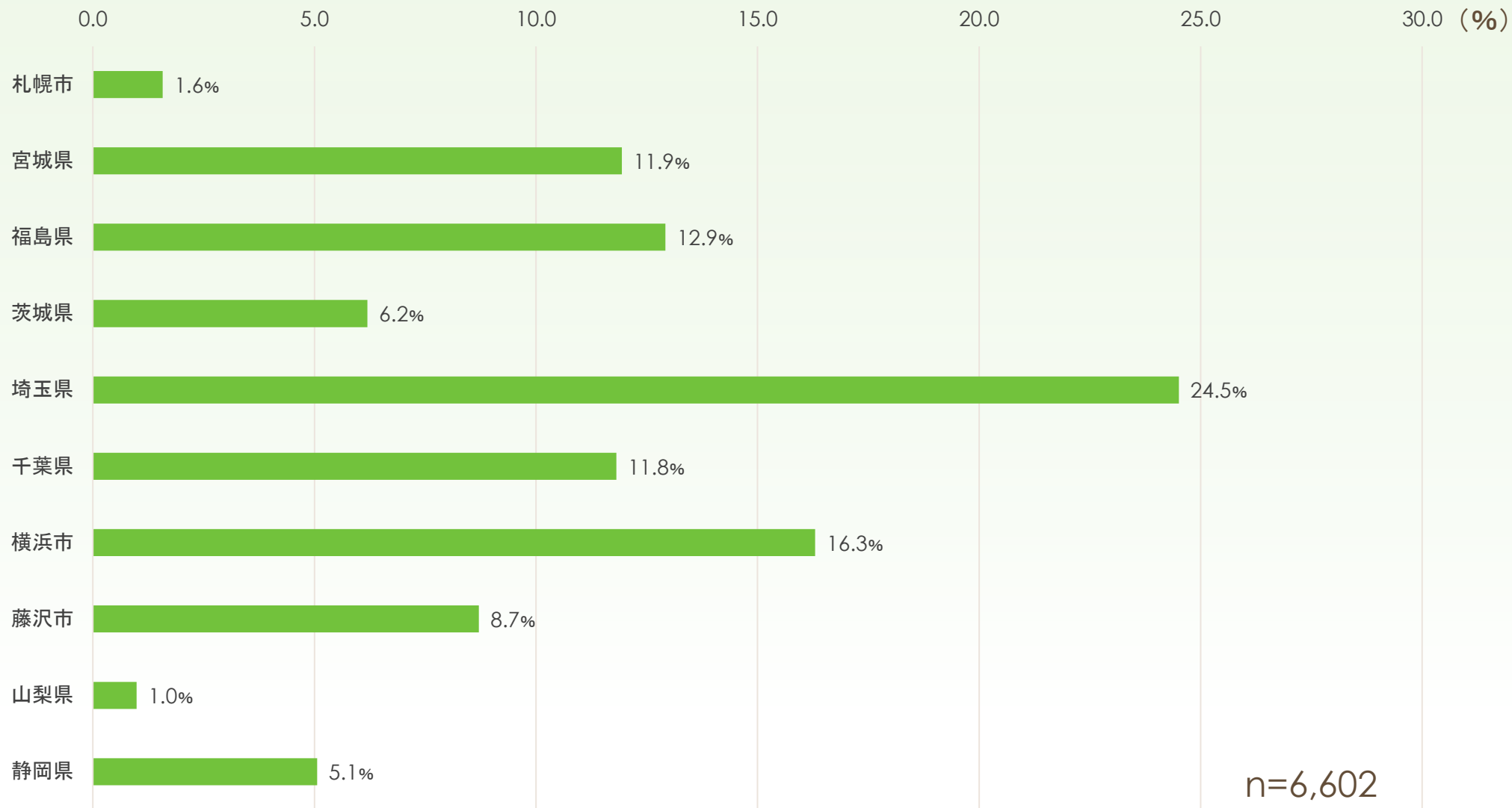


調査概要と方法

東京2020大会「都市ボランティア」アンケート調査（1）～応募動機、ボランティア活動への期待～

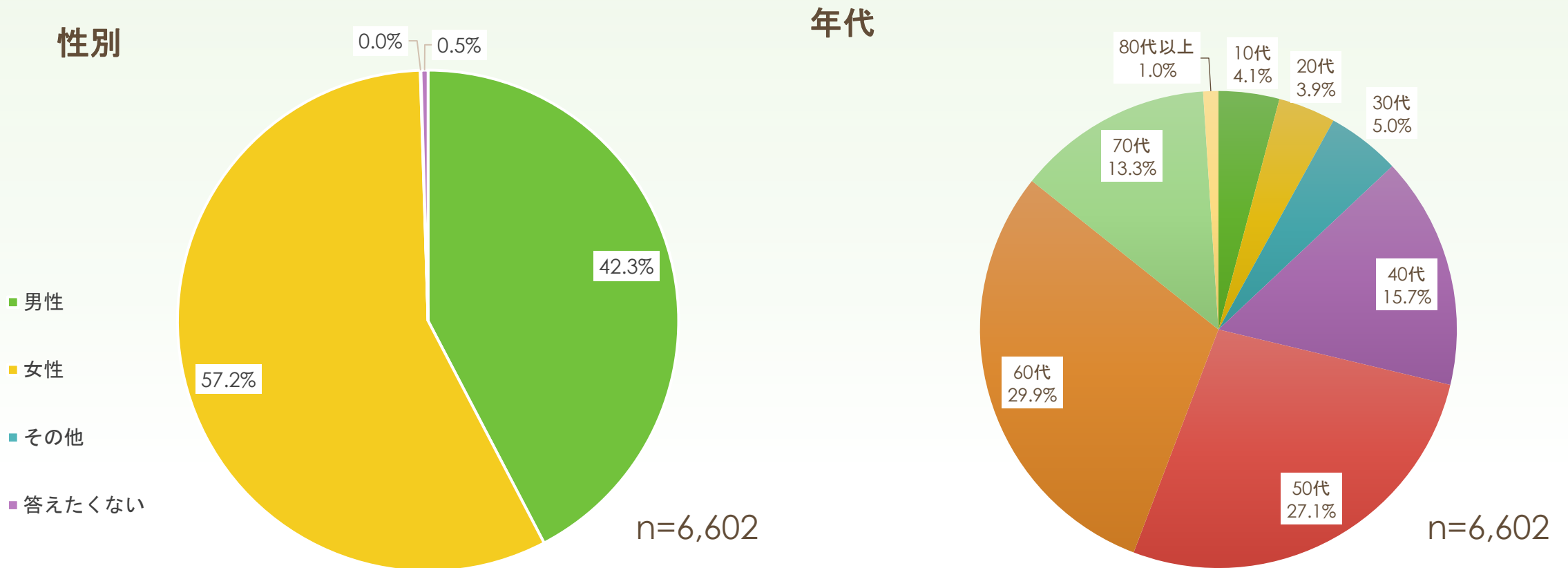
調査時期	2020年1月15日から2月5日まで
調査対象	東京2020大会の関係自治体（10自治体）の都市ボランティア 17,204人 （札幌市、宮城県、福島県、茨城県、埼玉県、千葉県、横浜市、藤沢市、山梨県、静岡県） 注）複数自治体の都市ボランティアに応募している場合は、いずれかの1つの自治体から回答する。
調査内容	応募動機、ボランティアに期待する変化・成長、今後の活動継続希望等
調査方法	インターネットによるアンケート調査
回答者	6,602サンプル（母数：17,204）（回収率38.37%）

自治体別の回答者



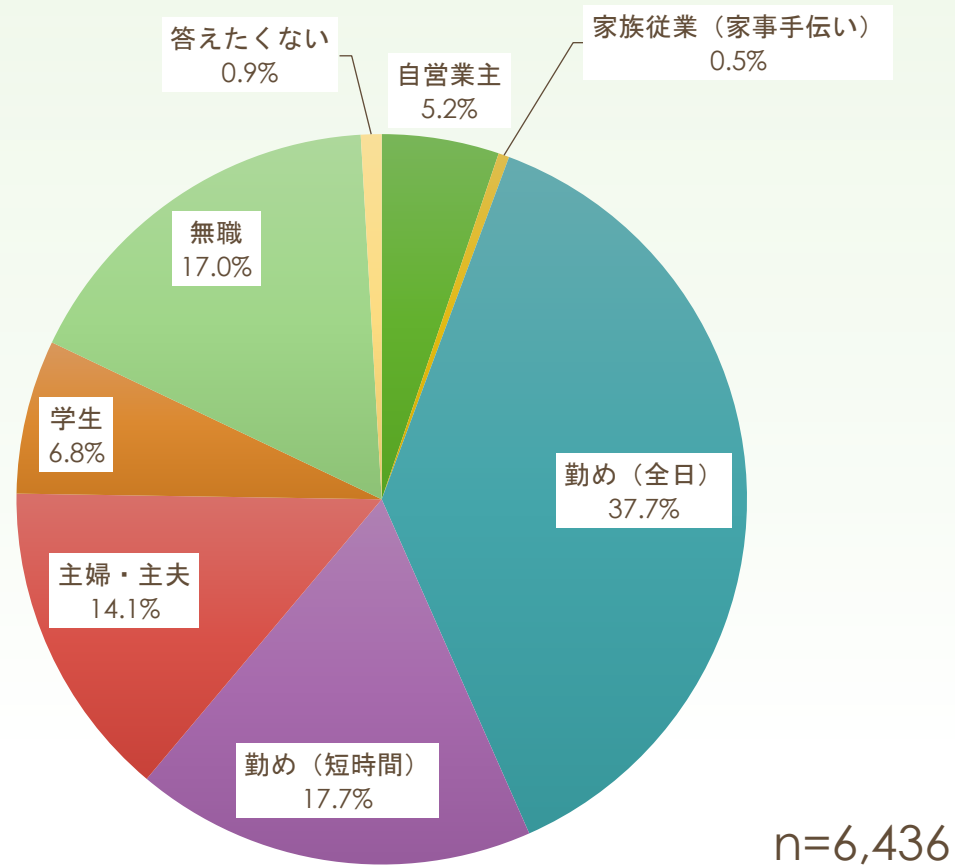
基本属性(性別、年齢)

- 性別では、やや女性が多い
- 年代では、60代・50代が全体の約6割を占め、30代以下は少ない



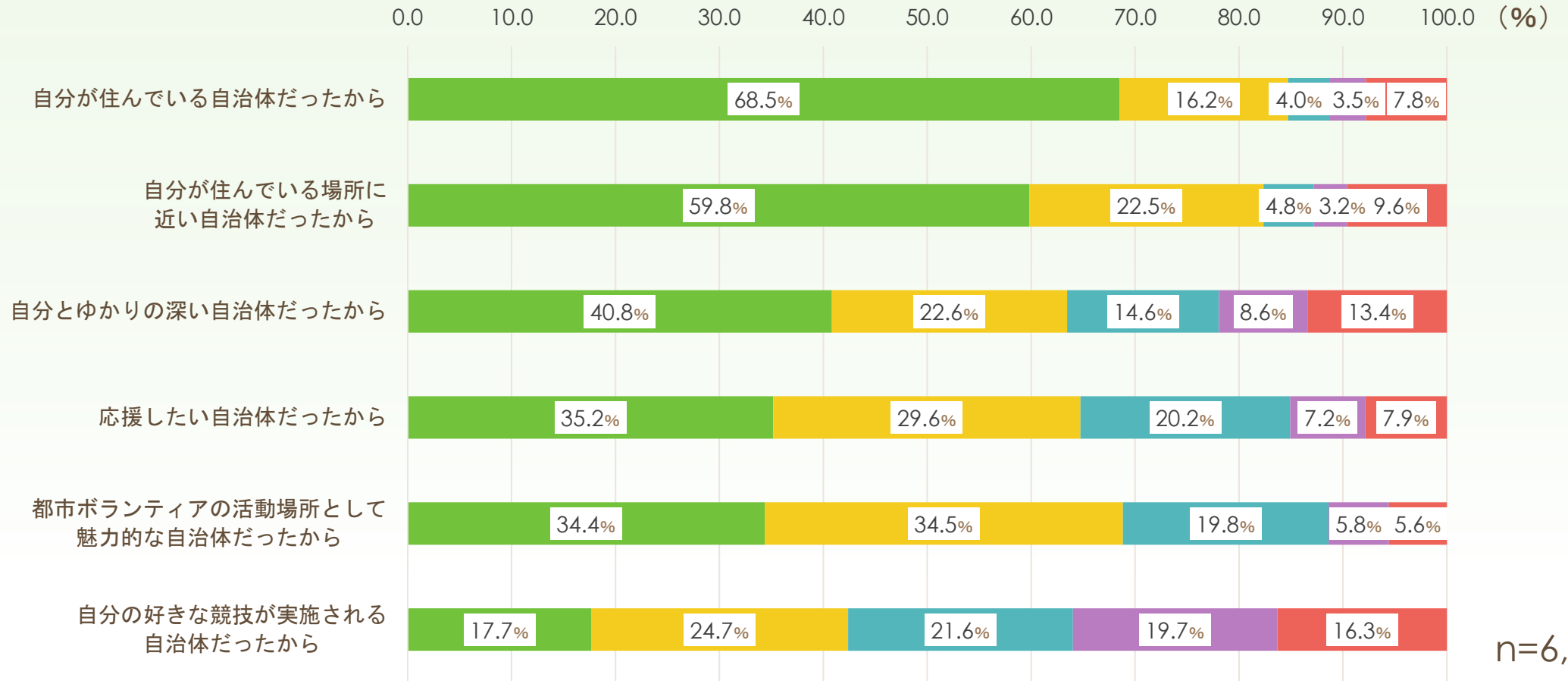
基本属性（職業）

➤ 職業では、勤め（全日）、勤め（短時間）が多い



自治体の選択理由(複数回答)

- 「自分が住んでいる自治体」「自分が住んでいる場所に近い自治体」等の地理的な要因がその選択に大きく影響している

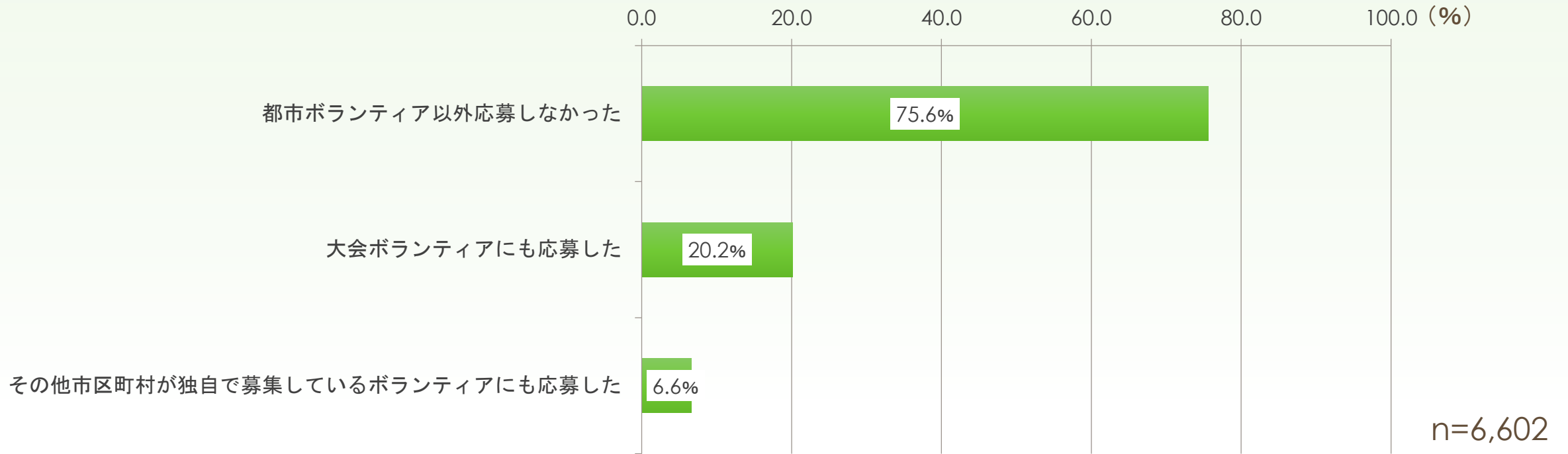


n=6,602

■ 非常にあてはまる ■ ややあてはまる ■ どちらともいえない ■ あまりあてはまらない ■ 全くあてはまらない

ボランティアの応募状況(複数回答)

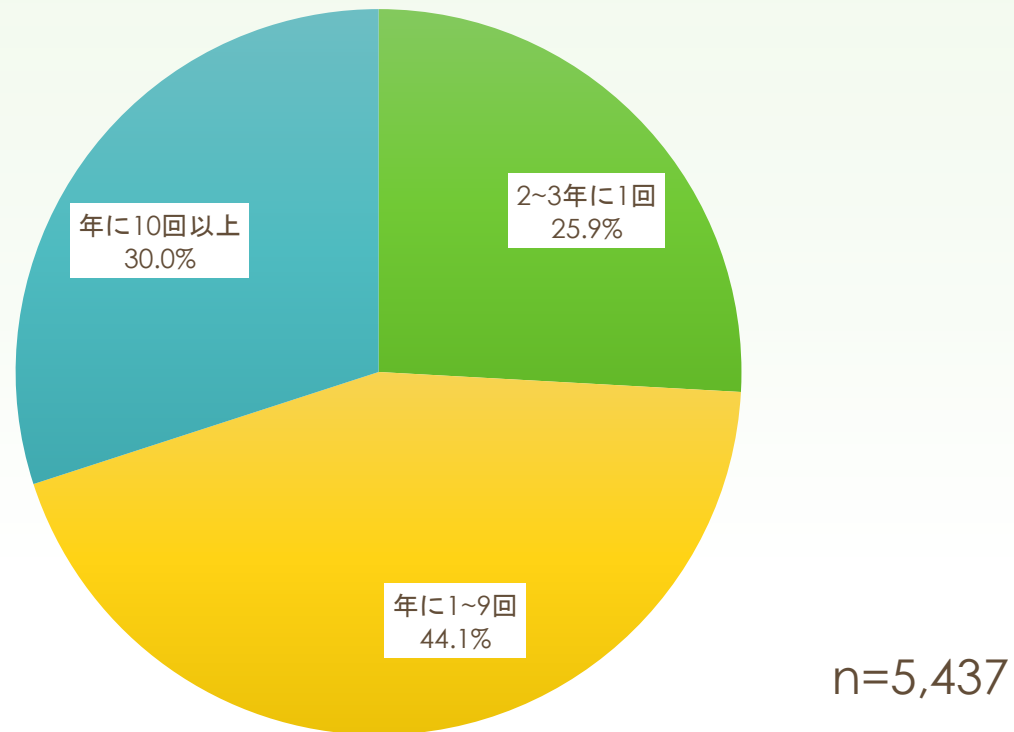
▶ 大会ボランティアにも応募したのは全体の2割



ボランティア経験・現在の活動頻度

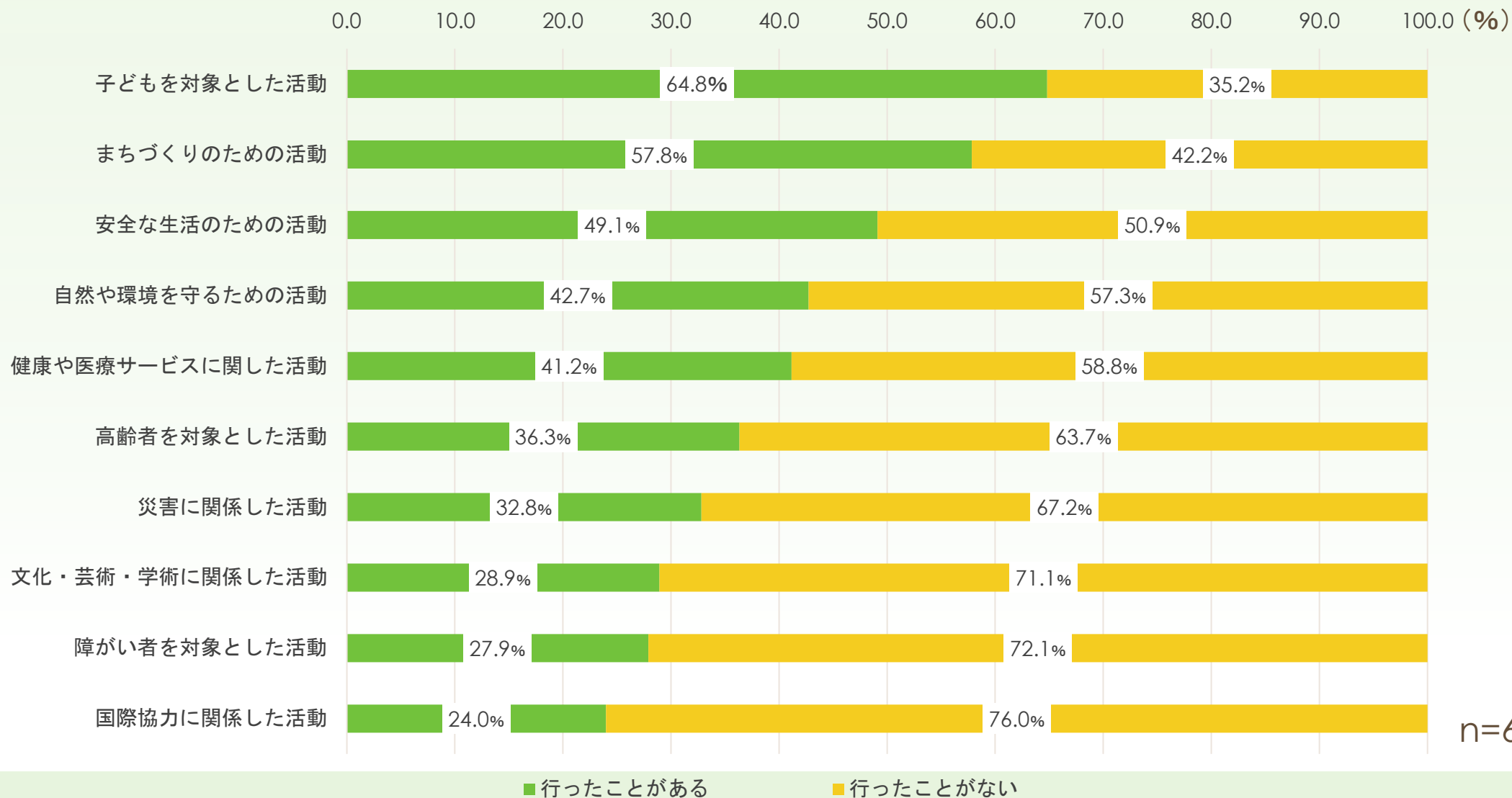
- 現在のボランティア活動頻度は、ボランティア実施者の3割の方が年に10回以上
- 7割の方が年に1回以上のボランティア実施者

ボランティア活動頻度:3区分



これまでのボランティア活動分野(複数回答)

▶ これまでのボランティア経験の活動内容は、子ども、まちづくり安全等が多い

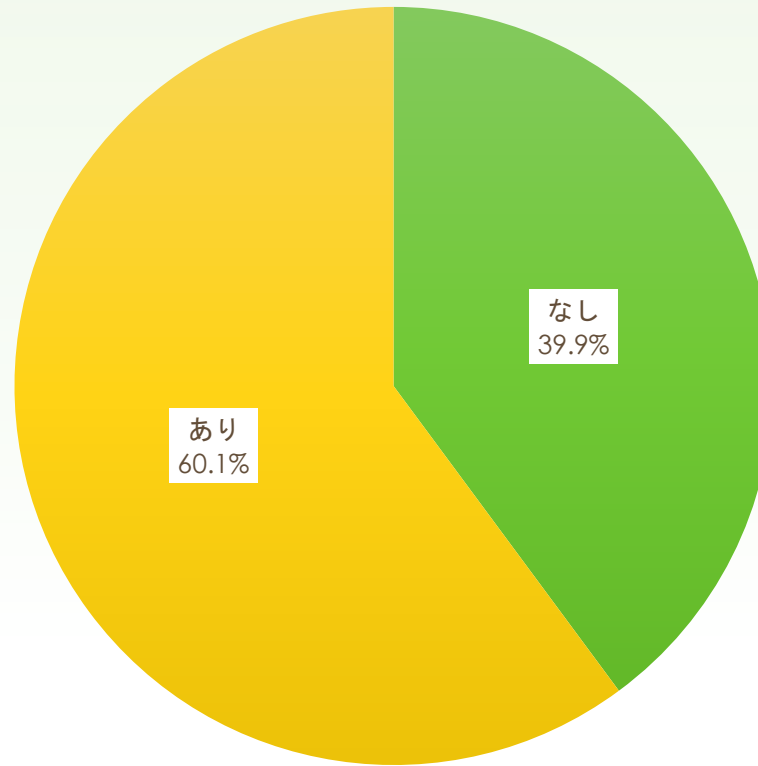


n=6,602

スポーツボランティア経験・現在の活動頻度

- スポーツボランティアの経験者が全体の6割

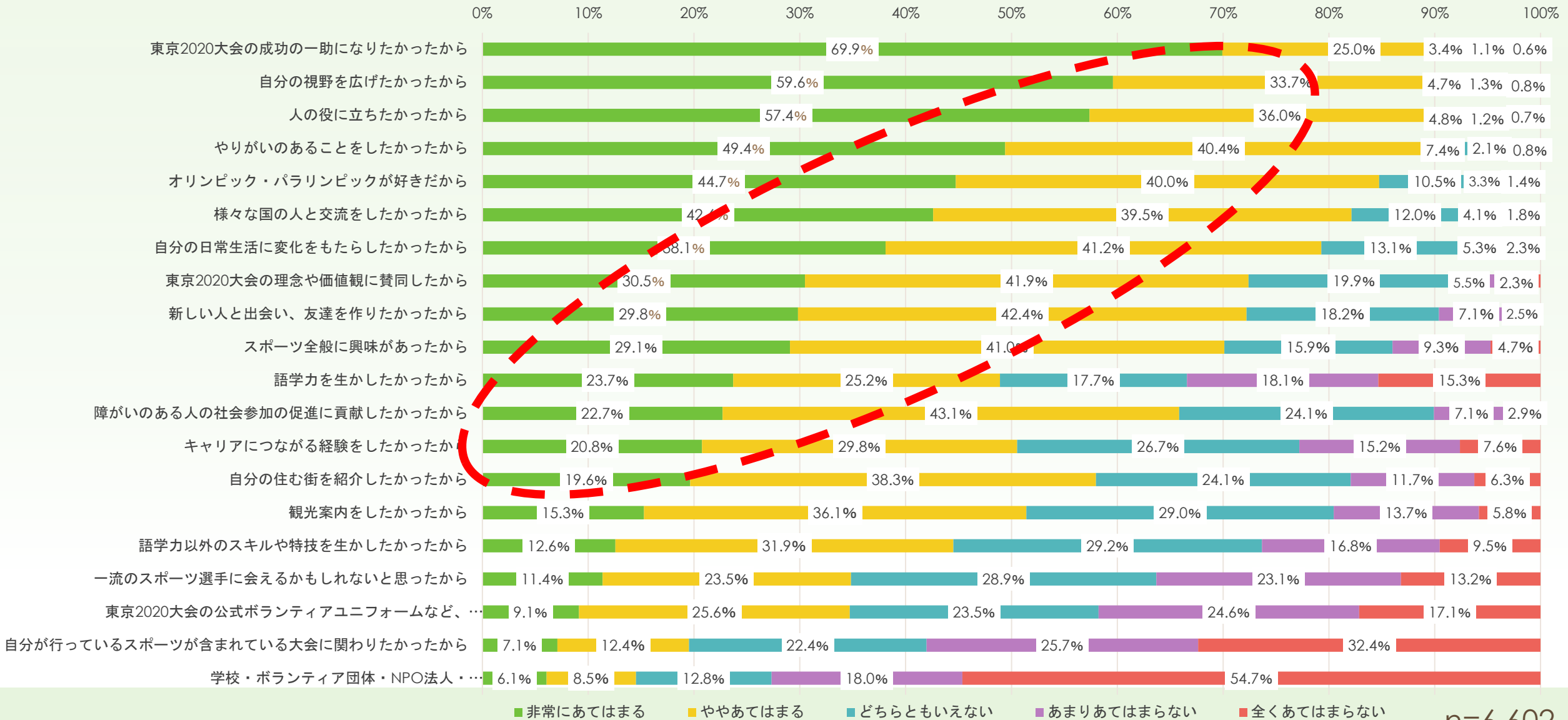
スポーツボランティア経験



n=6,602

応募動機(複数回答)

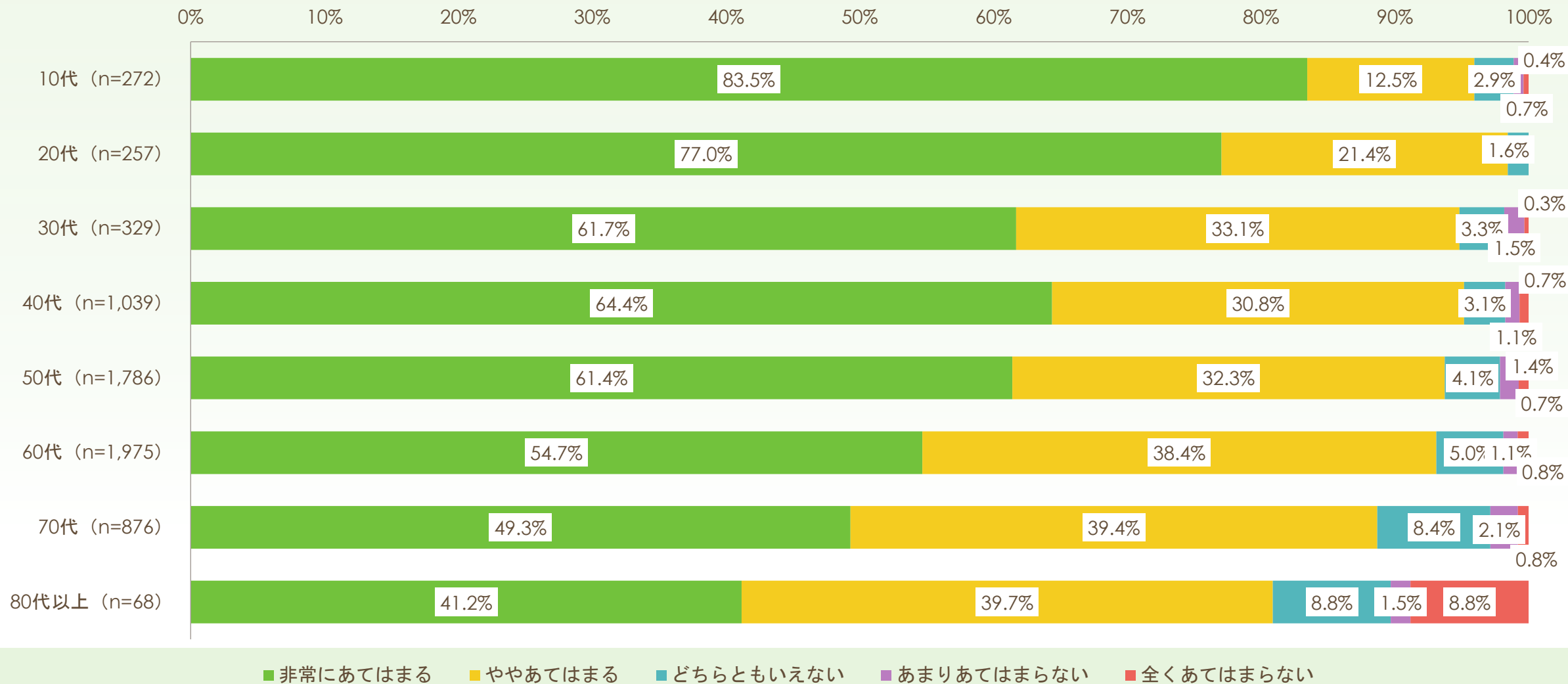
➤ 全体的な傾向として、人との関わりや出会い、自己の成長等、積極的な応募動機を持っている



n=6,602

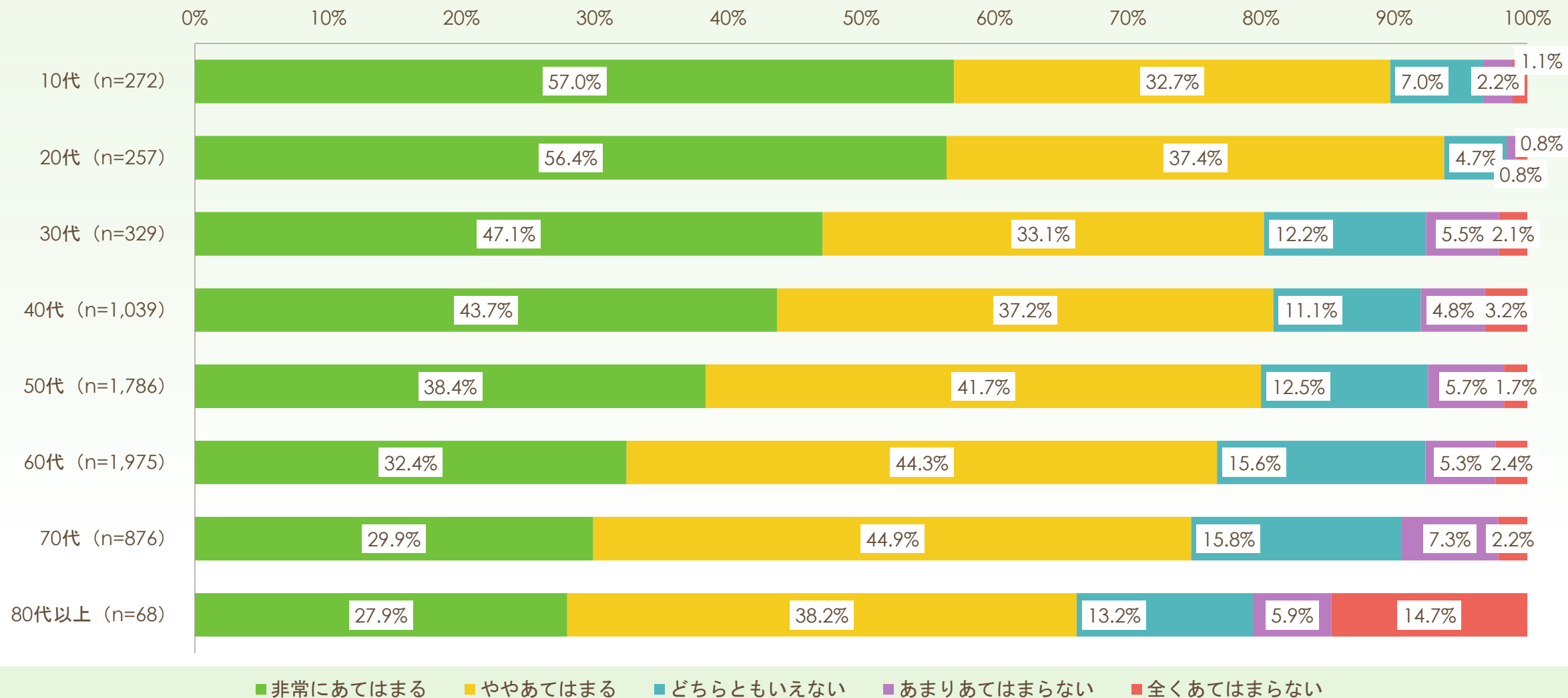
年代別：応募動機（自分の視野を広げたかったから）

➤ 「自分の視野を広げたかったから」の項目において、10代、20代の「非常に当てはまる」への回答が他よりも特に高い結果となった



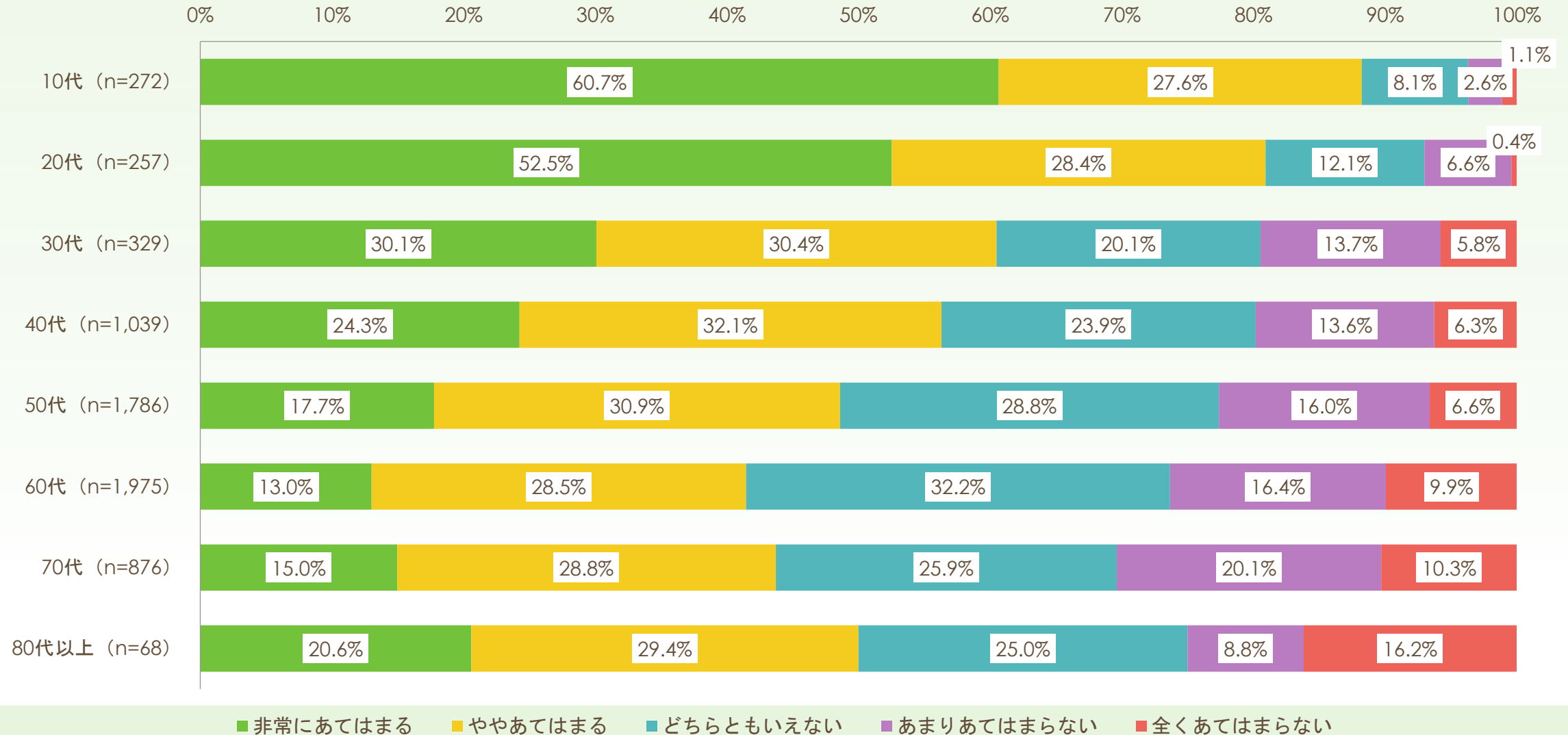
年代別：応募動機（自分の日常生活に変化をもたらしたかったから）

➤ 「自分の日常生活に変化をもたらしたかったから」の項目において、10代、20代の応募動機が他よりも特に高い結果となった



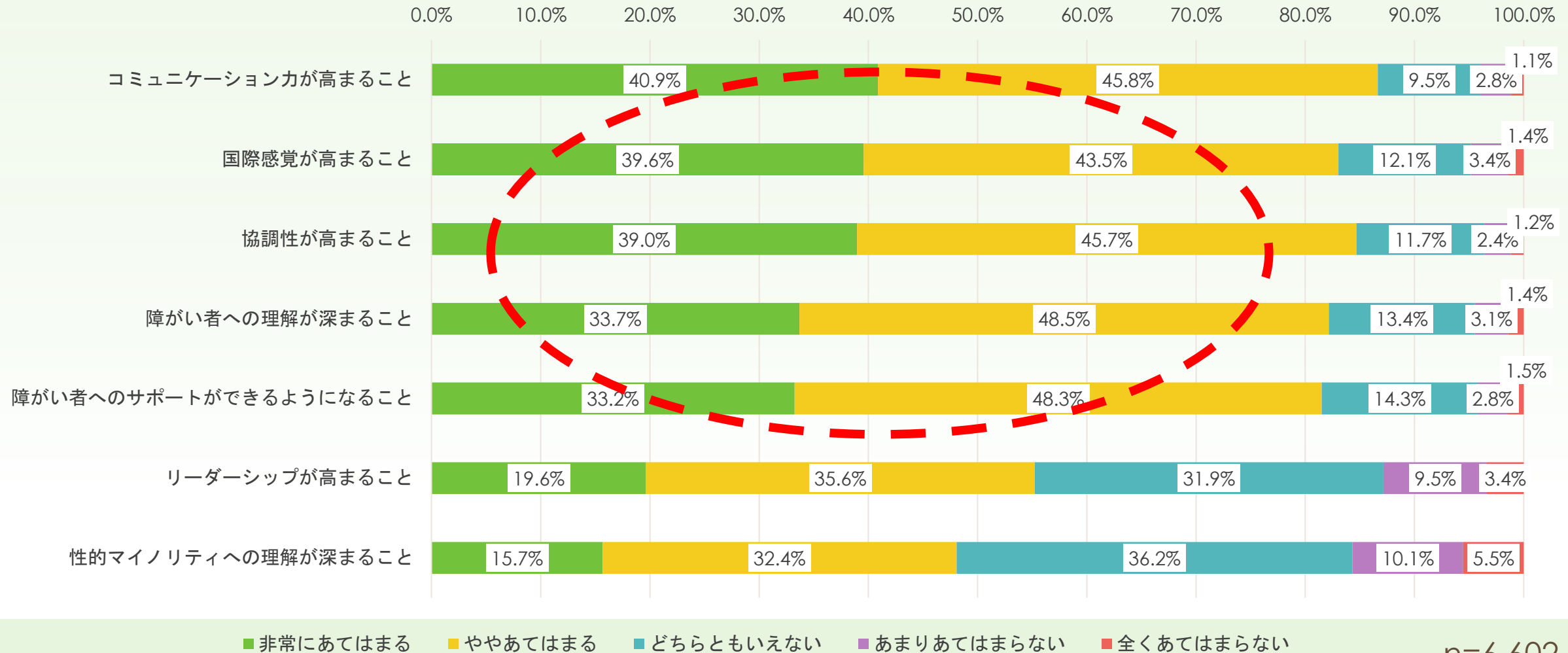
年代別：応募動機（キャリアにつながる経験がしたいから）

➤ 「キャリアにつながる経験がしたいから」の項目において、10代、20代の応募動機が他よりも特に高い結果となった



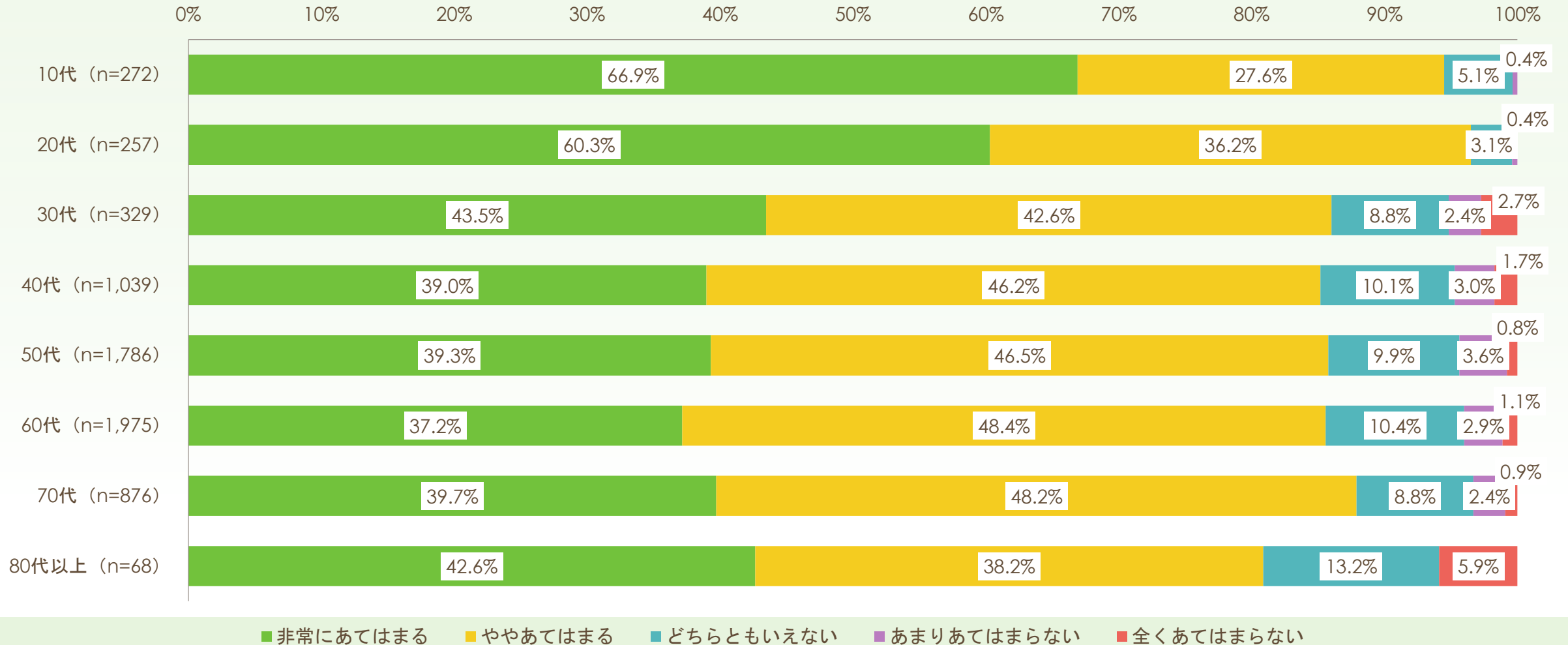
ボランティアに期待する変化・成長

- 「積極的に声をかけられる」「コミュニケーション力」「国際性、協調性」の向上など、都市ボランティアを経験することによって、積極的なコミュニケーションが図れるようになることへの期待変化が大きい
- 「障がい者への理解が深まること」「障がい者へのサポートができるようになること」といった障がい者への対応スキル獲得への期待も大きい



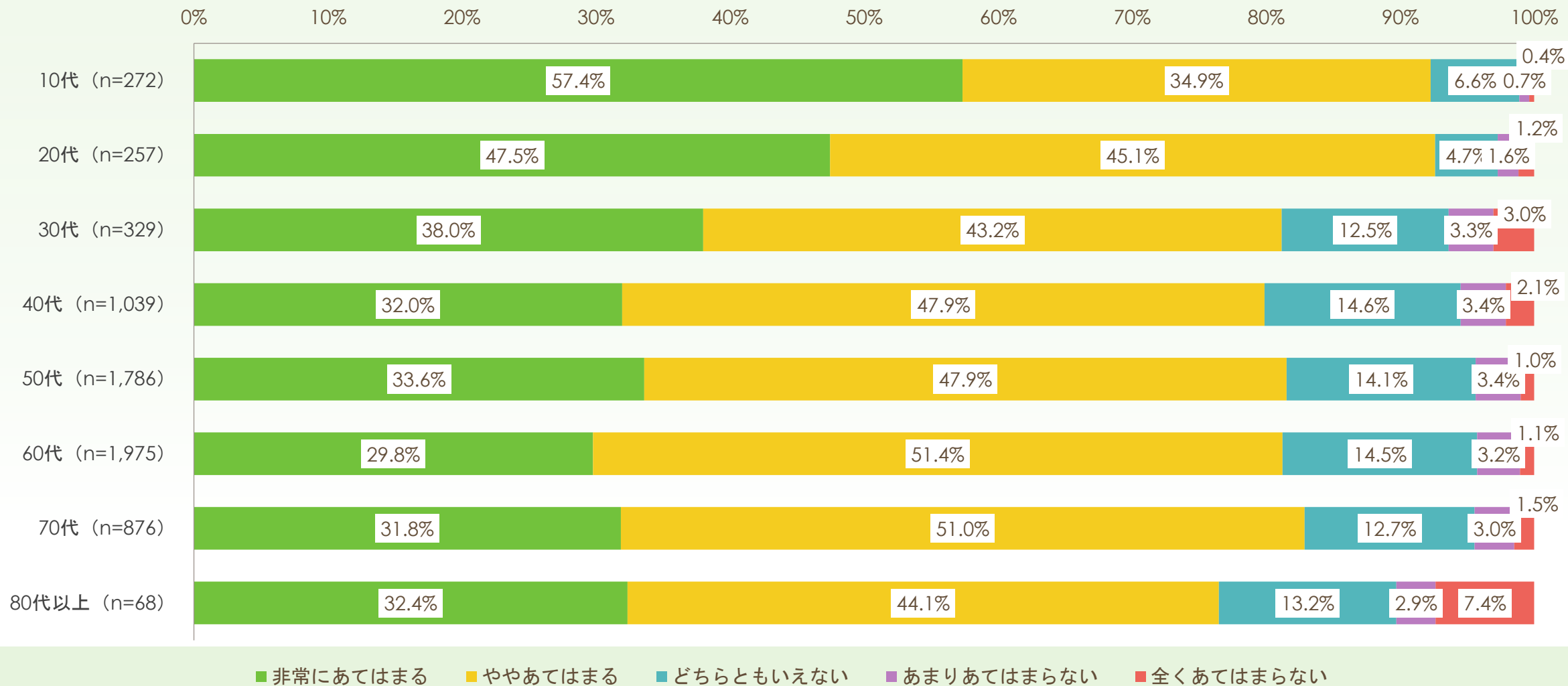
ボランティアに期待する変化・成長：年代別 (コミュニケーション力が高まること)

▶「コミュニケーション力が高まること」の項目において、10代、20代の期待する変化・成長が他よりも特に高い結果となった



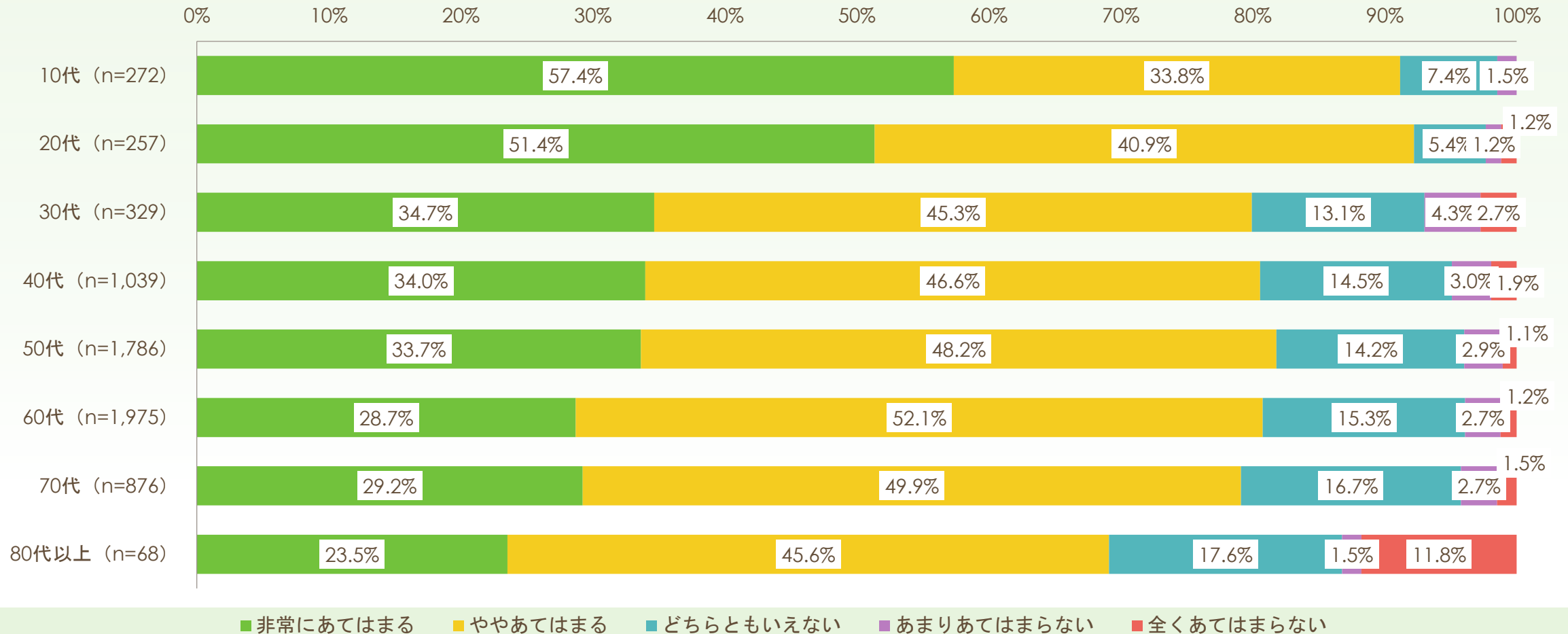
年代別:ボランティアに期待する変化・成長 (障がい者への理解が深まること)

▶「障がい者への理解が深まること」の項目において、10代、20代の期待する変化・成長が他よりも特に高い結果となった



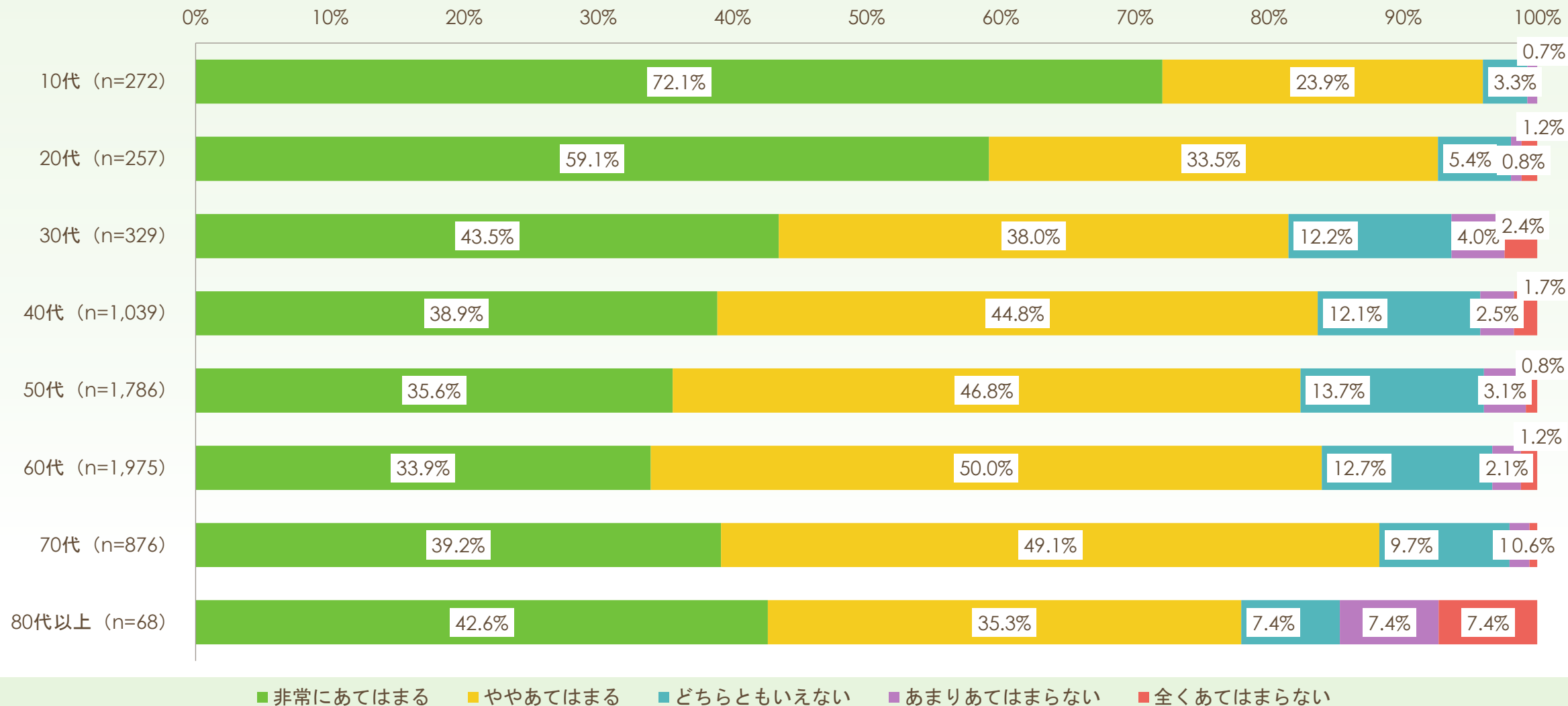
年代別: ボランティアに期待する変化・成長 (障がい者へのサポートができるようになること)

▶「障がい者へのサポートができるようになること」の項目において、10代、20代の期待する変化・成長が他よりも特に高い結果となった



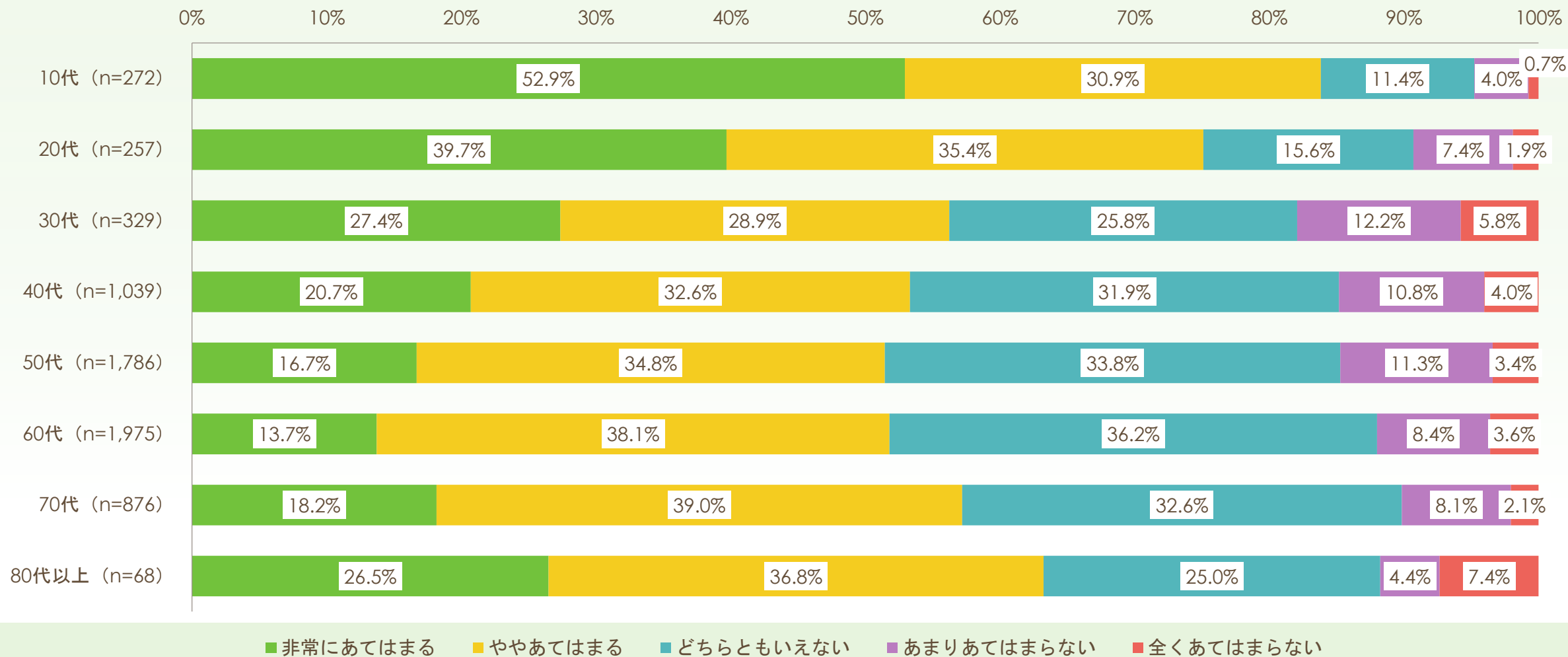
年代別: ボランティアに期待する変化・成長(協調性が高まること)

▶「協調性が高まること」の項目において、10代、20代の期待する変化・成長が他よりも特に高い結果となった



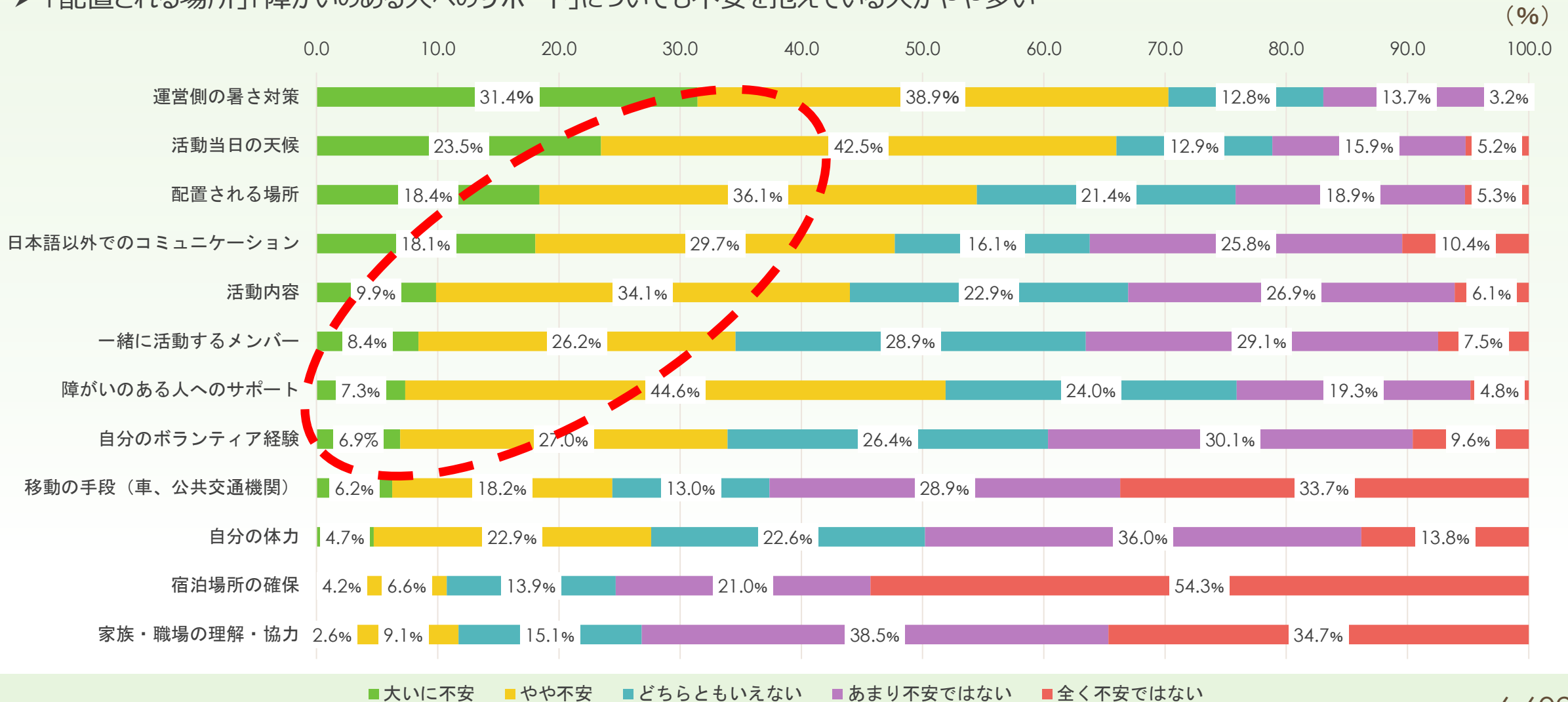
年代別：ボランティアに期待する変化・成長（リーダーシップが高まること）

▶「リーダーシップが高まること」の項目において、10代、20代の期待する変化・成長が他よりも特に高い結果となった



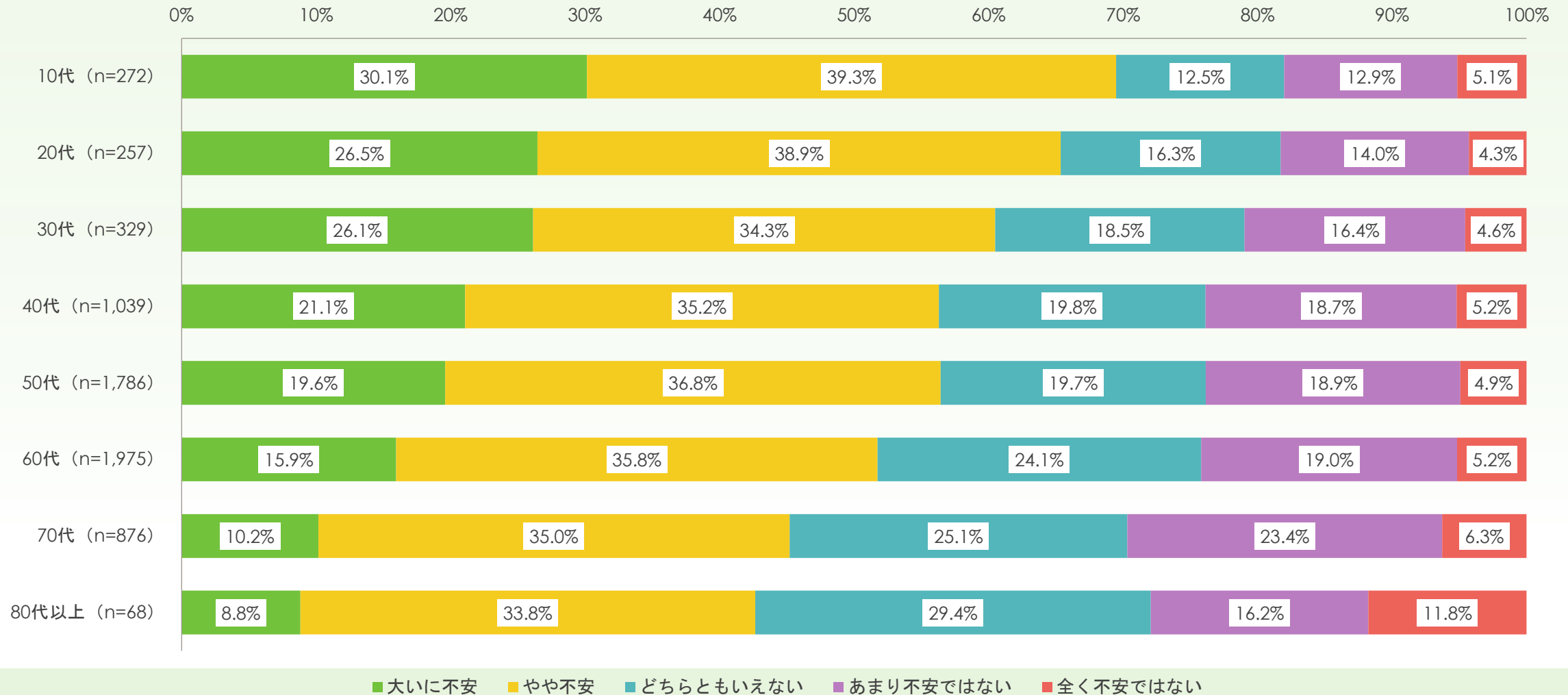
当日の不安事項

- 「運営側の暑さ対策」「活動当日の天候」に不安を抱えている人が多い
- 「配置される場所」「障がいのある人へのサポート」についても不安を抱えている人がやや多い



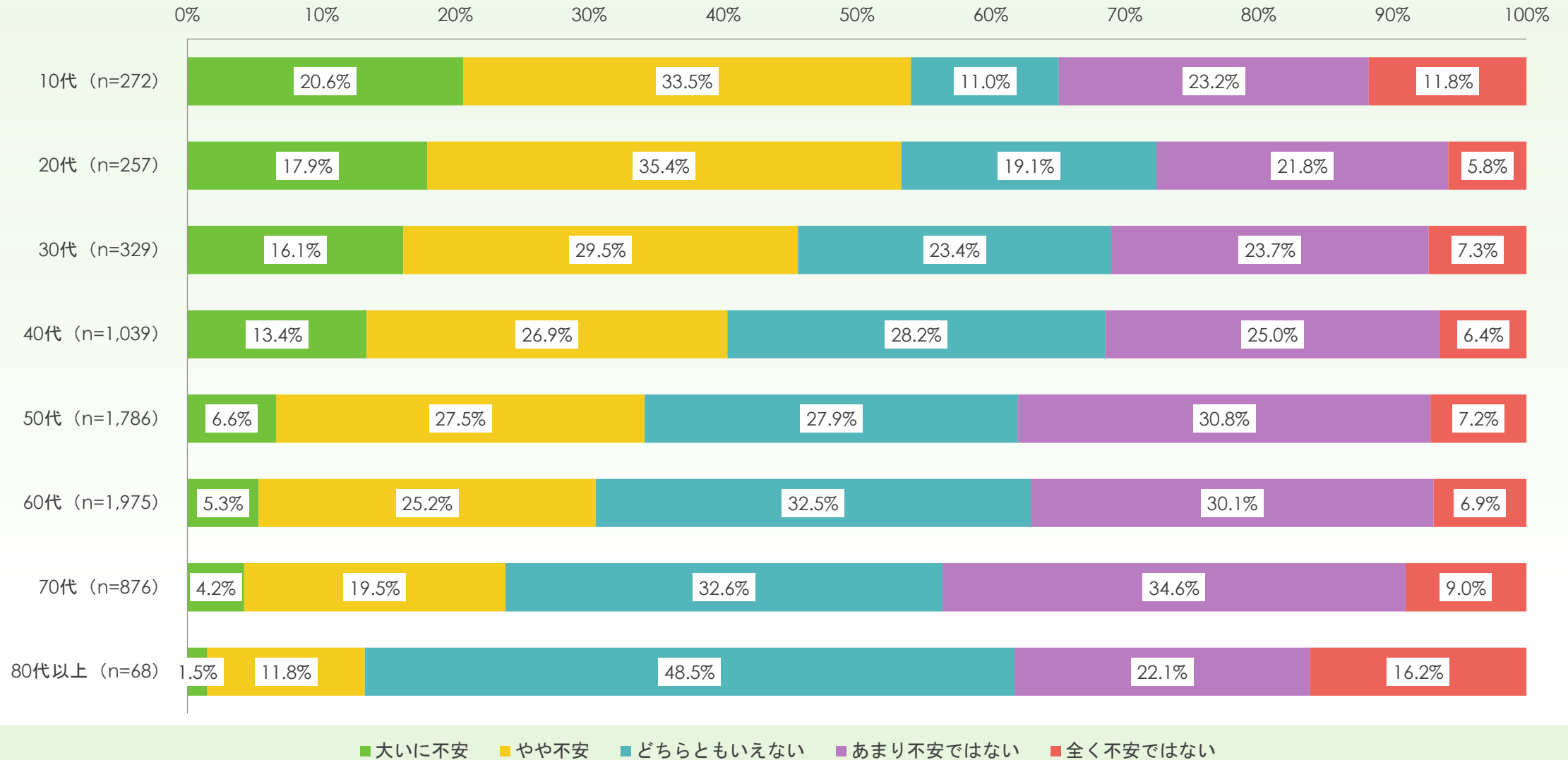
年代別：当日の不安事項（配置される場所）

▶ 「配置される場所」については、年代が若いほど不安を感じている割合が高い



年代別：当日の不安事項（一緒に活動するメンバー）

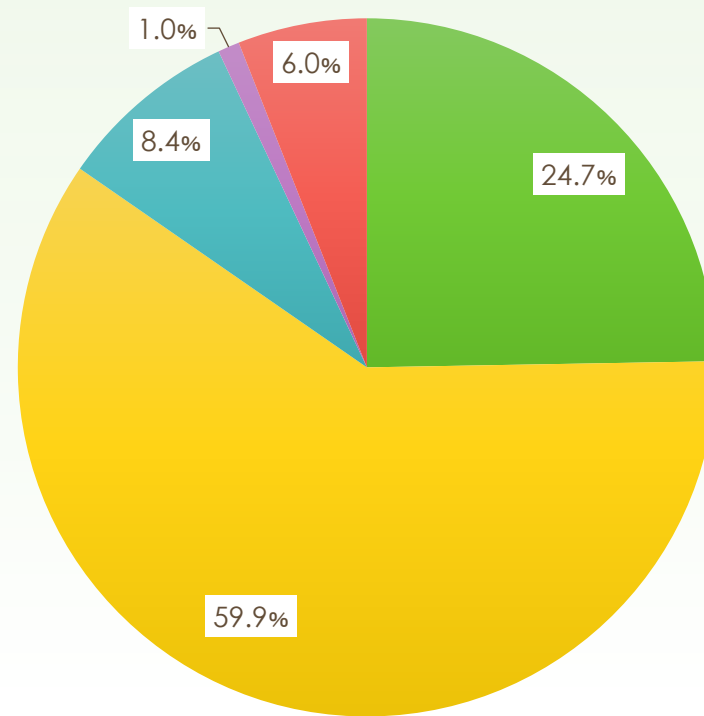
▶ 「一緒に活動するメンバー」については、年代が若いほど不安を感じている割合が高い



事前準備

- 大会開催までに85%の方が事前準備としてボランティア活動の経験を希望している

大会開催までの間に準備としてボランティア活動を行いたいか



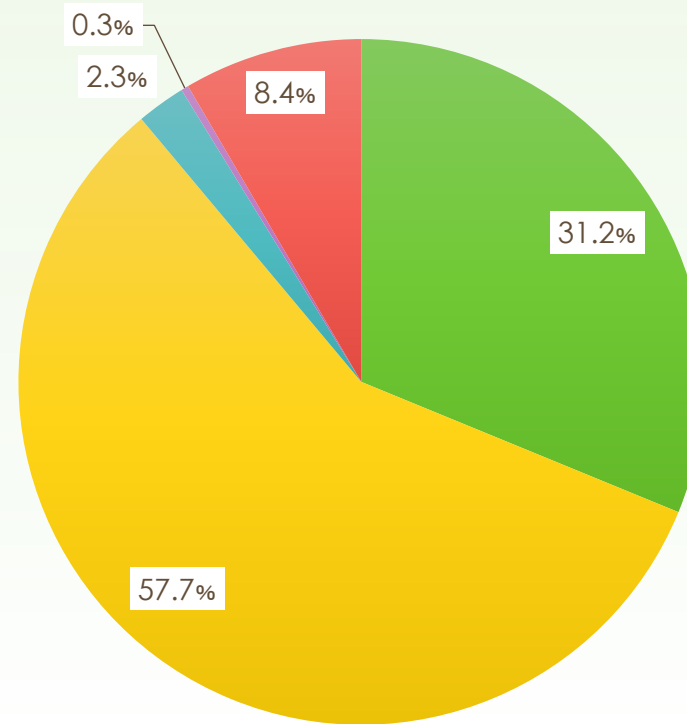
n=6,602

■ぜひ行いたい ■できれば行いたい ■あまり行いたくない ■まったく行いたくない ■行いたいかわからない

大会後の意向

- 大会後も約9割の方がボランティア活動の継続を希望している

大会後もボランティア活動を続けたいか



n=6,602

- ぜひ続けたい
- できれば続けたい
- あまり続けたくない
- まったく続けたくない
- 続けたいかわからない

結果の概要

- 回答者の応募動機、期待・変化から、非常に高いモチベーションを持った方々が多数応募していることが明らかになった。
- その中でも10代、20代における高いモチベーション、期待・変化が顕著である。
- 10代、20代の当日の活動不安の高さが顕著であった。
- 85%の方が、事前準備のためのボランティア活動を希望している。
- 約9割の方が大会後のボランティア活動の継続を希望している。